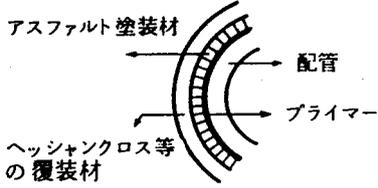
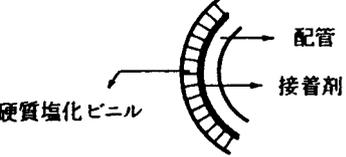
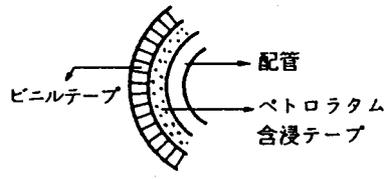
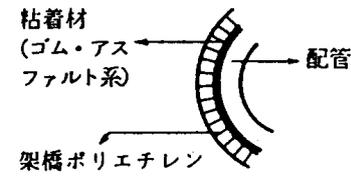


#### 第4 地下配管の防食措置の基準

地下配管の防食措置については、危険物告示によるほか次の表の例によること。

なお、廃止された日本工業規格G3491「水道用鋼管アスファルト塗覆装方法」に適合する塗覆装材及び塗覆装の方法により施工される配管の塗覆装は、危険物告示第3条第1号及び第2号並びに第22条第1号及び第2号に適合するものとして、これまでと同様に認められる。(平成23年12月21日消防危第302号)

表3-4-1 危険物告示第3条及び第22条に規定する塗覆装及びこれと同等以上の防食効果を有する防食措置の例

| 施工方法   | 備考   |
|--|--|
| <p>アスファルト塗覆装</p>  <p>アスファルト塗覆装材<br/>配管<br/>プライマー<br/>ヘッシャンクロス等の覆装材</p> | <p>(危険物告示第3条)</p> <p>配管の表面処理後、アスファルトプライマー(70~110 g/m<sup>2</sup>)を均一に塗装し、更に石油系ブローンアスファルト又はアスファルトエナメルを加熱溶融して塗装した上から、アスファルトを含浸した覆装材(ヘッシャンクロス、ビニロンクロス、ガラスマット、ガラスクロス)を巻き付ける。塗覆装の最小厚さ1回塗1回巻で3.0mm</p> |
| <p>硬質塩化ビニルライニング鋼管</p>  <p>硬質塩化ビニル<br/>配管<br/>接着剤</p>                  | <p>(昭和53年5月25日消防危第69号)</p> <p>口径15A~200A配管にポリエステル系接着剤を塗布し、その上に硬質塩化ビニル(厚さ2.0mm)を被覆したもの</p>  |
| <p>ペトロラタム含浸テープ被覆</p>  <p>ビニルテープ<br/>配管<br/>ペトロラタム含浸テープ</p>            | <p>(昭和54年3月12日消防危第27号)</p> <p>配管にペトロラタムを含浸したテープを厚さ2.2mm以上となるよう密着して巻きつけ、その上に接着性ビニールテープで0.4mm以上巻きつけ保護したもの</p>  |
| <p>ポリエチレン熱収縮チューブ</p>  <p>粘着材(ゴム・アスファルト系)<br/>配管<br/>架橋ポリエチレン</p>      | <p>(昭和55年4月10日消防危第49号)</p> <p>ポリエチレンチューブを配管に被覆した後バーナー等で加熱し、2.5mm以上の厚さで均一に収縮密着するもの</p>  |

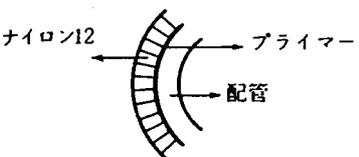
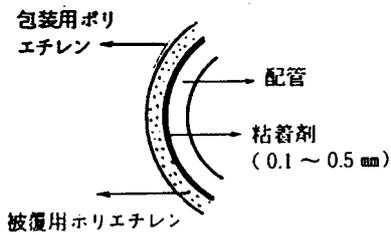
|   |   |
|---|---|
| <p>ナイロン12樹脂被覆</p>  | <p>(昭和58年11月14日消防危第115号)</p> <p>口径15A～100Aの配管に、ナイロン12を0.6mmの厚さで粉体塗装したもの</p> |
|---|---|

表3-4-2 危険物告示第3条の2に規定するコーティングの例

| 施工方法  | 備考  |
|---|---|
| <p>ポリエチレン被覆鋼管</p>  | <p>(危険物告示第3条の2)</p> <p>口径15A～90Aの配管に、ポリエチレンを1.5mmの厚さで被覆したもの。粘着剤はゴム、アスファルト系及び樹脂を主成分としたもの。</p> <p>被覆用ポリエチレンはエチレンを主体とした重合体で微量の滑剤、酸化防止剤を加えたもの</p> |